短　報

母親の就労と年長児の社会性との関連性

坂口由紀子

１．はじめに

近年、共働き世帯が増加し続けている[1)]一方で、出産前後に継続就業している割合は増えておらず、出産を機に離職する女性は以前と変わらず多い[2)]。こうした現状を踏まえ，仕事と生活の調和の推進に向けた取組が重要課題とされ、保健・保育関係者には、母親の生涯発達を支援するための就労支援と、子どもの健全な育成への支援が求められている。先行研究より、親の養育パターンが子どもの社会性や精神状態に関連しているとの報告はある[3) 4)]が、母親の就労と子どもの社会性との関連については、関連があるという報告[5)]と、関連はないという報告[6)]がある。

年長児は、保育園や幼稚園など集団生活の場に相違はあれども、就学に向けて一定の社会性が身につく時期であると考え、本研究では年長児の母親を対象に、母親の就労と年長児の社会性に関する調査を行った。

本研究の目的は、母親の就労と年長児の社会性との関連性を明らかにすることで、保健・保育関係者が行う次世代育成支援につなげる基礎的資料を得ることである。

２．用語の定義

１）年長児

年長児クラスに在籍する 5～6 歳の幼児であり、本研究では、2005 年 4 月～2006 年 3 月生まれの幼児とする。

２）社会性

円滑な人間関係を営むために必要な行動である社会的スキルと、人間関係を阻害する行動である問題行動の 2 領域からとらえる。

３.対象と方法

１）対象

首都圏の幼稚園 3 園、保育園 9 園を利用している年長児の母親 106 名。

２）研究方法

自記式質問紙調査を行った。依頼書・質問紙・返信用封筒一式の配布は保育士及び幼稚園教諭が行い、郵送法にて回収した。調査期間は、2012 年 2 月～3 月である。

３）分析方法

SPSS（Ver.20）を用いて、T 検定、一元分散分析、Spearman の相関係数にて検定し、相関係数 0.4 以上、有意水準 5%以下を採用した。

４）倫理的配慮

研究の目的、方法、研究協力の有無にかかわらず、不利益や危険が生じないこと、プライバシーの保護、データの活用及び研究終了後のデータの処理について文書にて説明を行った。なお、本研究は所属大学倫理審査委員会の承諾を得て実施した。

４．質問紙の構成

質問紙の内容は、年長児の性別、入園年齢、母親の就労状況、両親の年齢、母親の養育態度、年長児の社会性に関する項目で構成した。

母親の養育態度を把握するために、中道ら[7)]が開発した「親の養育態度尺度」16 項目を 4 件法で用いた。「親の養育態度尺度」は、“子どもの意図とは関係なく親が子どもにとって良いと思う行動を強制する行動”である「統制」と、“子どもの意図・意欲に気づき、愛情表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動”である「応答性」の 2 因子で構成され

ている。

また､年長児の社会性を把握するために、中台ら[8) 9)]が開発した家庭用の「幼児の社会的スキル尺度」25項目を5件法で用いた。「幼児の社会的スキル尺度」は、主張スキル、自己統制スキル、協調スキルの3因子で構成される「社会的スキル領域」と、不注意多動行動、引っ込み思案行動、攻撃行動の3因子で構成される「問題行動領域」の2領域から成る。

５．結果

１）対象の背景（表1）

331部配布し、106部回収した（回収率32.0%)。そのうち、質問項目すべてに記入のある83部を分析対象とした(有効回答率79.2%)。年長児の性別は、男児が49名（59.0%)、女児が34名（41.0%)、入園時年齢の平均が2.3±1.4歳であった。親の平均年齢は､父親が38.5±6.1歳､母親が36.0±3.9歳であり、母親の就労は、常勤が28名(33.7%)､パートタイム就労(以下パート)が37名(44.6%)、無職が18名(21.7%)であった。

２）母親の就労と属性

（１）母親の就労2群（有職・無職）での比較（表2)

母親の就労2群で属性を検定した結果、親の年齢と年長児の性別に差はなく、入園年齢に有意差があった（ｔ値：-3.921，ｐ＝0.000)。

（２）母親の就労3群（常勤・パート・無職）での比較（表3)

母親の就労3群で検定した結果、親の年齢や年長児の性別に差はなく、入園年齢に有意差があった（Ｆ値:4.953,ｐ＝0.009)。入園した年齢は、常勤＜パート＜無職の順で大きかった。

３）母親の就労と母親の養育態度

母親の就労2群および3群で養育態度を検定した結果､有意差は認められなかった。

４）母親の養育態度と年長児の社会性

母親の養育態度と年長児の社会性を検定した結果､有意な相関は認められなかった。

５）母親の就労と年長児の社会性

（１）母親の就労2群（有職・無職）での比較（表4)

母親の就労2群で年長児の社会性を検定した結果、「主張スキル」で有意差があり、有職の得点が高かった(ｔ値：2.371，ｐ＝0.020)。

（２）母親の就労3群（常勤・パート・無職）での比較（表5)

母親の就労3群で検定した結果､「攻撃行動」で有意差があり、無職＜常勤＜パートの順で得点が高かった（Ｆ値：3.347，ｐ＝0.040)。

以上のことから、母親の就労は､「主張スキル」と、「攻撃行動」に関連（ｐ＜0.05)が認められたが､その背景として､「入園年」が有意に早期(p＜0.01)であることがわかった。「攻撃行動」が有意に高い「パート」群の「入園年」は2～3歳（平均2.3±1.5歳）であり、母親からの自立（探索行動）と分離不安（安全基地）が共存する時期と重なっていた。

６．考察

母親の就労は、子どもの社会性に関連していたが、合わせて、子どもの入園時期、すなわち、集団保育の開始時期も子どもの社会性に影響することが推察される。今回の調査から、母親からの自立と分離不安が

共存する 2〜3 歳に入園した子どもたちの社会性にやや問題行動が生じやすいことがわかったが、これは集団生活の期間の差が影響していることも推察される。木村ら[10]は、保育歴が長い子の方が、対人関係や協調性の得点が高いことを明らかにしており、本研究でも同様の関連があったと考えられる。

保健・保育関係者は、常勤の母親に対する支援に目を向けることは多いが、仕事時間の短いパートタイム就労の母親への支援は十分であろうか。今回の調査から、十分な考察はできないもののパートタイムで働く母親の子どもの問題行動傾向があがった。今後、パートタイム就労の現状等を把握し、より必要とされる支援を模索する必要がある。

７．本研究の限界と課題

本研究は、アンケートにお答えいただいた方の回答から読み取れた傾向であり、実態を反映しているとは言えないため、一般化は困難である。今後、面接調査を行い、実態を明らかにする必要がある。

謝辞

本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきました、子ども課課長様、各園の園長先生、保育士・幼稚園教諭の皆様に心より感謝いたします。本研究の成果は、お忙しい中、調査にご協力くださいました保護者の皆様のお蔭であり、心より感謝申し上げます。

文献

1) 内閣府：雇用環境の変化．男女共同参画白書　平成 23 年版,第 1 部,第 2 章,第３節（2011）
2) 内閣府：仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の重要性．男女共同参画白書　平成 23 年版，第 1 部，第 4 章，第 2 節（2011）
3) 中道圭人，中澤潤：父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連．千葉大学教育学部研究紀要，**51**，173-179（2003）
4) Diana F.N., Gonzales A. and Manuel Berrera Jr., Larry E. Dumka: Interparental Relations, Maternal Employment, and Fathering in Mexican American Families. Journal of Marriage and Family, **69**, 26-39 (2007)
5) 菅 万理：母親の就労が思春期の子どもの行動・学業に及ぼす効果：Propensity Score Matching による検証．東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト，ディスカッションペーパーシリーズ No. 28（2009）
6) 菅原ますみ：母親の就労と子どもの問題行動との関連．実教出版，家庭科資料 28 号（2002）
http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/53/8445706249
7) 再掲 3)
8) 中台佐喜子，金山元春：幼児の社会的スキルと孤独感．カウンセリング研究，**35**，237-245（2002）
9) 中台佐喜子，金山元春，前田健一：幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル - 同性仲間と異性仲間からの評価．広島大学心理学研究，**2**，151-157（2002）
10) 木村留美子，竹俣由美子，津田朗子，藤田三樹，木村礼，関秀俊：養育環境が幼児の社会性の発達に及ぼす影響について．金大医保つるま保健学会誌，**27**，121-128（2003）

表 1. 対象の背景

年長児の性別・入園年齢・母親の就労・親の平均年齢						
年長児の性別	男児 49 名 (59.0%)			女児 34 名 (41.0%)		
年長児の入園年齢	0 歳 14 名(16.9%)	1 歳 11 名(13.3%)	2 歳 8 名(9.6%)	3 歳 36 名(43.4%)	4 歳 14 名(16.9%)	平均 2.3±1.4 歳
母親の就労	常勤　28 名(33.7%)		パート　37 名(44.6%)		無職　18 名(21.7%)	
親の平均年齢	父親　38.5±6.1 歳			母親　36.0±3.9 歳		
年長児の社会性の平均値						
社会的スキル領域	主張スキル 16.2±3.2		自己統制スキル 11.6±2.6		協調スキル 10.3±2.0	
問題行動領域	不注意多動行動 9.0±2.8		引っ込み思案行動 9.7±2.4		攻撃行動 8.0±2.7	

表 2. 母親の就労 2 群による属性の差

	就労有無	N	平均値	t 値	有意確率
入園年	有職	65	2.1±1.4	-3.921	0.000
	無職	18	3.1±0.7		

表 3. 母親の就労 3 群による属性の差

	就労有無	N	平均値	F 値	有意確率
入園年	常勤	28	1.8±1.3	4.953	0.009
	パート	37	2.3±1.5		
	無職	18	3.1±0.7		

表 4. 母親の就労 2 群による年長児の社会性の差

	就労有無	N	平均値	t 値	有意確率
主張スキル	有職	65	16.7±3.0	2.371	0.020
	無職	18	14.7±3.2		

表 5. 表 3. 母親の就労 3 群による年長児の社会性の差

	就労有無	N	平均値	F 値	有意確率
攻撃行動	常勤	28	7.3±2.1	3.347	0.040
	パート	37	8.8±3.0		
	無職	18	7.4±2.4		